

# 資料集 (知る・測る・減らす)

1



## 知る

### ◎ 情報の収集

2050年カーボンニュートラルに向けた潮流を自分事で捉えましょう

### ◎ 方針の検討

現状の経営方針や経営理念を踏まえ、脱炭素経営で目指す方向性を検討してみましょう

2



## 測る

### ◎ CO<sub>2</sub>排出量の算定

自社CO<sub>2</sub>排出量を算定することで、カーボンニュートラルに向けた取組の理解を深めましょう

### ◎ 削減ターゲットの特定

自社の主要な排出源となる事業活動やその設備等を把握することで、どこから削減に取り組むべきかあたりをつけてみましょう

3



## 減らす

### ◎ 削減計画の策定

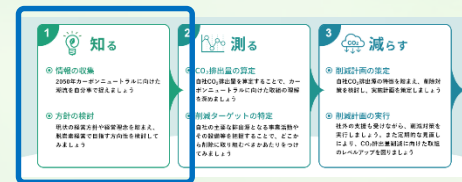
自社CO<sub>2</sub>排出源の特徴を踏まえ、削減対策を検討し、実施計画を策定しましょう

### ◎ 削減計画の実行

社外の支援も受けながら、削減対策を実行しましょう。また定期的な見直しにより、CO<sub>2</sub>排出量削減に向けた取組のレベルアップを図りましょう

はだの脱炭素コンソーシアム  
(第三回定例協議会)

# 地球温暖化対策推進法に基づく部門別削減目標



## ■ 地球温暖化対策推進法に基づく政府の総合計画

「2050年カーボンニュートラル」宣言、2030年度46%削減目標※等の実現に向け、計画を改定。

※我が国の中期目標として、2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指す。さらに、50%の高みに向け、挑戦を続けていく。

温室効果ガス排出量・吸収量 (単位：億t-CO <sub>2</sub> )		2013排出実績	2030排出量	削減率	従来目標
		14.08	7.60	▲46%	▲26%
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		12.35	6.77	▲45%	▲25%
部門別	産業	4.63	2.89	▲38%	▲7%
	業務その他	2.38	1.16	▲51%	▲40%
	家庭	2.08	0.70	▲66%	▲39%
	運輸	2.24	1.46	▲35%	▲27%
	エネルギー転換	1.06	0.56	▲47%	▲27%
非エネルギー起源CO <sub>2</sub> 、メタン、N <sub>2</sub> O		1.34	1.15	▲14%	▲8%
HFC等4ガス（フロン類）		0.39	0.22	▲44%	▲25%
吸収源		-	▲0.48	-	(▲0.37億t-CO <sub>2</sub> )
二国間クレジット制度（JCM）		官民連携で2030年度までの累積で1億t-CO <sub>2</sub> 程度の国際的な排出削減・吸収量を目指す。我が国として獲得したクレジットを我が国のNDC達成のために適切にカウントする。			-

**1 知る**

- ① 既報の公表  
2020年度の排出量データが公表された。既報も自分自身で確認しよう。
- ② 方針の検討  
国の政策や地域や産業別を踏まえ、排出削減策を自らの考えで検討しよう。

**2 測る**

- ③ CO<sub>2</sub>排出量の測定  
排出量の測定方法を踏まえ、排出量を正確に測定しよう。
- ④ 削減目標の設定  
国の政策や地域や産業別を踏まえ、削減目標を設定しよう。

**3 減らす**

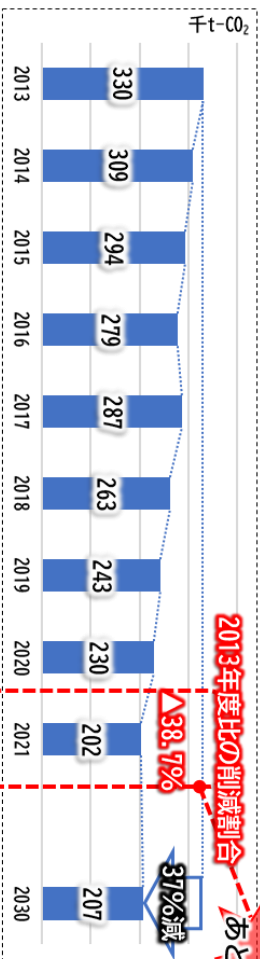
- ⑤ 削減計画の実行  
削減目標を達成するために、削減策を実行しよう。
- ⑥ 削減計画の検証  
削減策の実行状況を踏まえ、削減目標を達成しよう。

# 秦野市における排出量の推移 (2021年度/最新暫定値を含む)

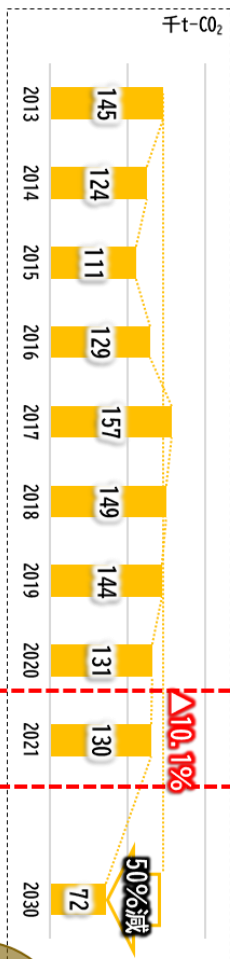
## 区域施策編 (秦野市域) における部門別削減量及び吸収・固定化量の推移

### I 排出抑制策

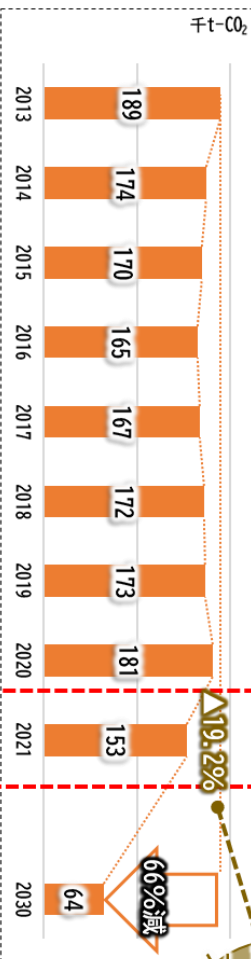
#### - I 産業部門 (第一次及び第二次産業の事業活動から排出される二酸化炭素量)



#### - II 民生(業務)部門 (第三次産業の事業活動から排出される二酸化炭素量)

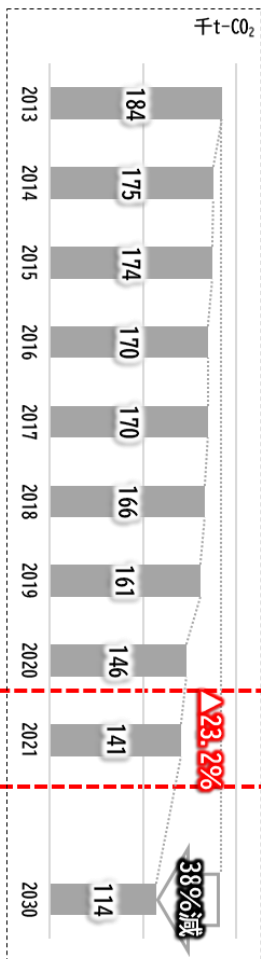


#### - III 民生(家庭)部門 (一般家庭の経済活動から排出される二酸化炭素量)

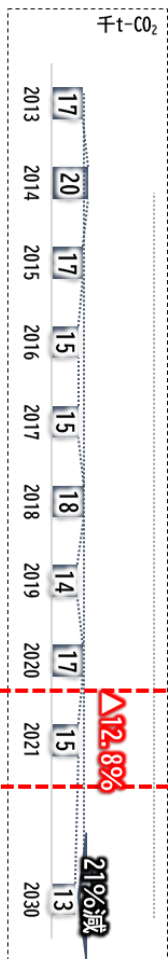


**注目!!**  
コロナ禍の自粛緩和により、大幅に削減

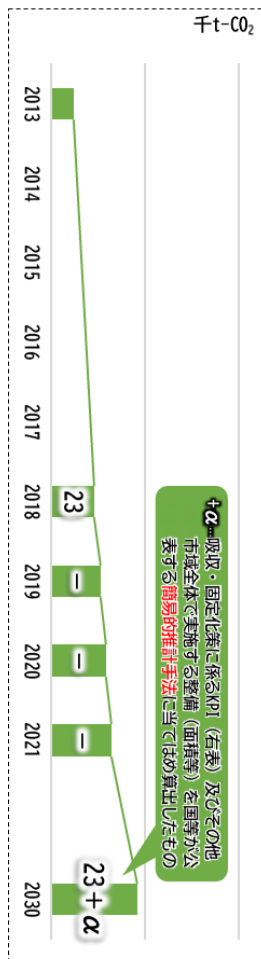
#### - IV 運輸部門 (住宅・工場・事業所の外部で人・物の輸送・運搬により排出される二酸化炭素量)



#### - V 廃棄物部門 (一般廃棄物の焼却や下水処理等により排出される二酸化炭素量)



### II 吸収・固定化策



# 事業活動（エネルギー使用の分野）に係る法定報告義務

**1 知る**

◎ 既報の収集  
2016年以降のエネルギー消費状況、削減率を把握してください。

◎ 方針の検討  
省エネの推進方針や削減目標を設定し、削減率を定めて目標を設定してください。

**2 測る**

◎ CO<sub>2</sub>排出量の算定  
省エネの推進方針や削減目標を設定し、削減率を定めて目標を設定してください。

◎ 削減率の算定  
削減率を算定し、削減率を定めて目標を設定してください。

**3 減らす**

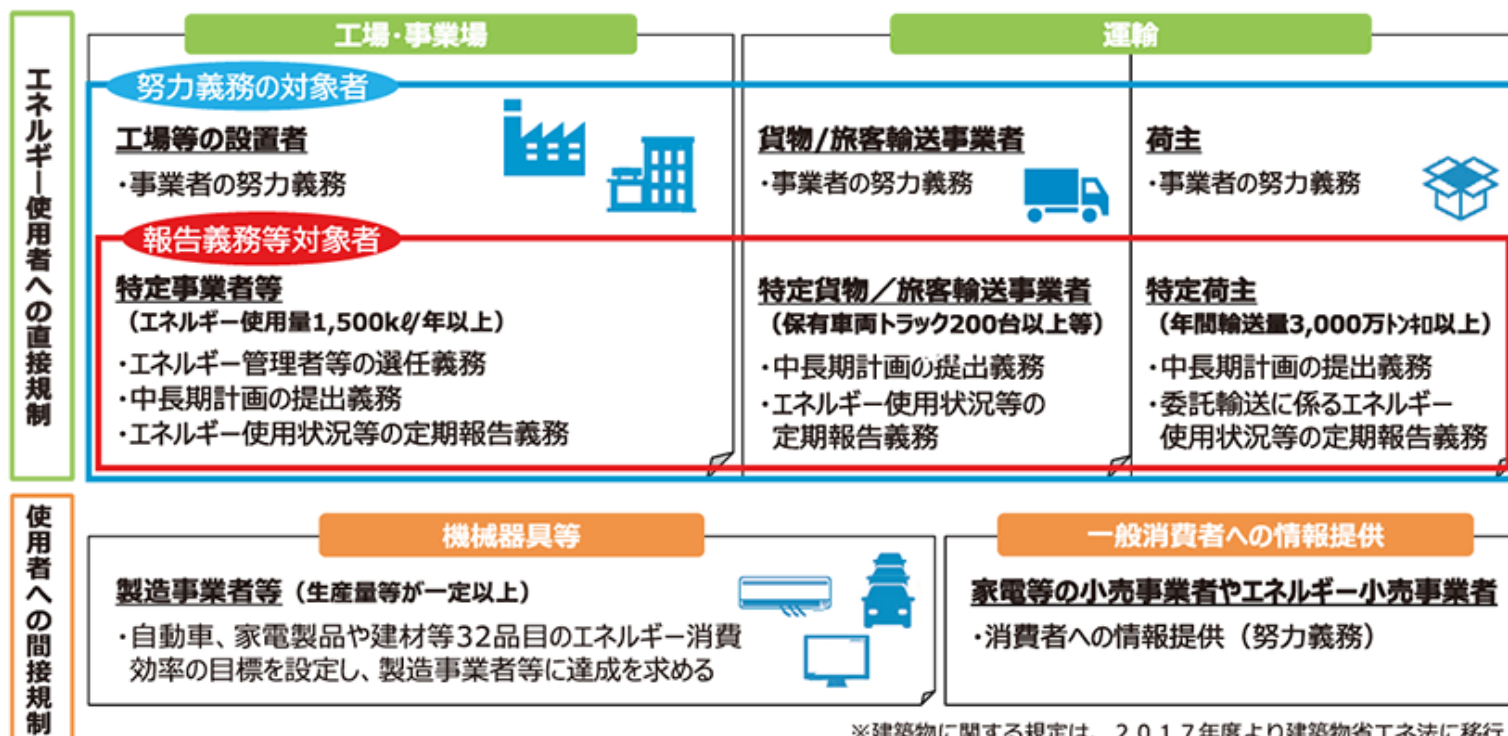
◎ 削減計画の策定  
削減率を定めて目標を設定し、削減率を定めて目標を設定してください。

◎ 削減計画の実行  
削減率を定めて目標を設定し、削減率を定めて目標を設定してください。

## 省エネ法が規制する分野

省エネ法がエネルギー使用者へ直接規制する事業分野としては、工場・事業場及び運輸分野があります。

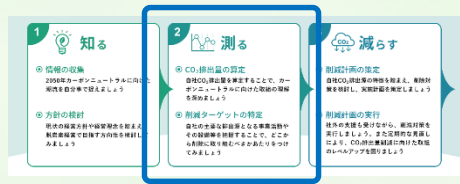
工場等（工場又は事務所その他の事業場）の設置者や輸送事業者・荷主に対し、省エネ取組を実施する際の目安となるべき判断基準を示すとともに、一定規模以上の事業者にはエネルギー使用状況等を報告させ、取組が不十分な場合には指導・助言や合理化計画の作成指示等を行うこととしています。また、エネルギー使用者への間接規制として、機械器具等（自動車、家電製品や建材等）の製造又は輸入事業者を対象とし、機械器具等のエネルギー消費効率の目標を示して達成を求めるとともに、効率向上が不十分な場合には勧告等を行っています。



※建築物に関する規定は、2017年度より建築物省エネ法に移行

# スコープ1, 2, 3とは

企業が脱炭素への取り組みを促進する際、重要になるのが「スコープ」という視点です。  
スコープとは、温室効果ガスの排出量を測定する範囲のことを指し、スコープ1, 2, 3に分類されます。



サプライチェーン排出量 = Scope1排出量 + Scope2排出量 + Scope3排出量

[GHGプロトコル \(英語\)](#) (Greenhouse Gas Protocol、外部リンク) のScope3基準では、Scope3を15のカテゴリに分類します。



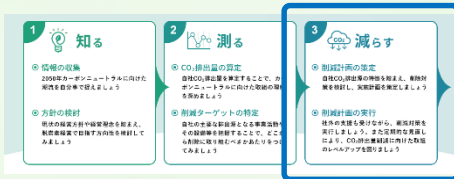
Scope1: 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)

Scope2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope3: Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)



区分		該当する排出活動（例）
1	購入した製品・サービス	原材料の調達、パッケージングの外部委託、消耗品の調達
2	資本財	生産設備の増設（複数年にわたり建設・製造されている場合には、建設・製造が終了した最終年に計上）
3	Scope1、2に含まれない燃料及びエネルギー活動	調達している燃料の上流工程（採掘、精製等） 調達している電力の上流工程（発電に使用する燃料の採掘、精製等）
4	輸送、配送（上流）	調達物流、横持物流、出荷物流（自社が荷主）
5	事業から出る廃棄物	廃棄物（有価のものは除く）の自社以外での輸送（※1）、処理
6	出張	従業員の出張
7	雇用者の通勤	従業員の通勤
8	リース資産（上流）	自社が賃借しているリース資産の稼働 （算定・報告・公表制度では、Scope1、2に計上するため、該当なしのケースが大半）
9	輸送、配送（下流）	出荷輸送（自社が荷主の輸送以降）、倉庫での保管、小売店での販売
10	販売した製品の加工	事業者による中間製品の加工
11	販売した製品の使用	使用者による製品の使用
12	販売した製品の廃棄	使用者による製品の廃棄時の輸送（※2）、処理
13	リース資産（下流）	自社が賃貸事業者として所有し、他者に賃貸しているリース資産の稼働
14	フランチャイズ	自社が主宰するフランチャイズの加盟者のScope1、2に該当する活動
15	投資	株式投資、債券投資、プロジェクトファイナンスなどの運用
	その他（任意）	従業員や消費者の日常生活




## 脱炭素経営に向けた3つのステップ



脱炭素経営は、2050年カーボンニュートラルを見据えた自社の目指す姿を定めた上で、CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた有効な対策を実行していきます。



①知る




**情報の収集**

1-1

2050年カーボンニュートラルに向けた潮流を自身事で捉えましょう

---




**方針の検討**

1-2

現状の経営方針や経営理念を踏まえ、脱炭素経営で目指す方向性を検討してみましょう

②測る




**CO<sub>2</sub>排出量の算定**

2-1

自社のCO<sub>2</sub>排出量を算定することで、カーボンニュートラルに向けた取組の理解を深めましょう

---




**削減ターゲットの特定**

2-2

自社の主要な排出源となる事業活動やその設備等を把握することで、どこから削減に取り組むべきかあたりを付けてみましょう

③減らす




**削減計画の策定**

3-1

自社のCO<sub>2</sub>排出源の特徴を踏まえ、削減対策を検討し、実施計画を策定しましょう

---



**削減対策の実行**

3-2

社外の支援も受けながら、削減対策を実行しましょう。また定期的な見直しにより、CO<sub>2</sub>排出量削減に向けた取組のレベルアップを図りましょう

